

2017年度以降入学生(学籍番号17で始まる方)

GPA 制度と 修学指導・ 退学勧告

本学では、学生の皆さんの学習意欲向上と、教職員による適切な修学指導支援のため、GPA (Grade Point Average) 制度を設けています。
GPA の値が著しく悪化した場合には、学科教員から修学指導を受けることとなり、また場合によっては退学勧告を受けることもあります。
学生の皆さんは GPA 制度の趣旨を十分理解し、卒業に向けてより効果的な学習を行ってください。

GPAとは

GPA とはアメリカなどの大学で多く使用される成績の評価方法で、S・A・B・C・D といった成績評価を GP (Grade Point) と呼ばれる数値に置き換え、それにそれぞれの取得単位数を乗じたものを履修申請単位数で除して算出される1単位数あたりの平均値です。
仮に、単位を取得することができた科目の成績が良くても、一方で不合格となった科目の数も多ければ GPA は高くなりません。
したがって、GPA を高い水準に保つためには、履修登録した科目をひとつひとつ丁寧に学習し、それぞれ高い評価で合格することが必要となります。

GP

GP は、成績評価に基づき下表のとおりとします。

成績評価	S	A	B	C	D・*
GP	4	3	2	1	0

GPA 計算式

GPA は次の式により算出します。

$$GPA = \frac{(4 \times S \text{の取得単位数}) + (3 \times A \text{の取得単位数}) + (2 \times B \text{の取得単位数}) + (1 \times C \text{の取得単位数})}{\text{履修申請した総単位数}}$$

(小数点第4位以下切り捨て)

なお、GPA の算出には、卒業要件に算入されない教職課程の科目も含め、すべての科目が対象となります。

また、GPA は「年度 GPA」(年度ごとの GPA) と「累積 GPA」(入学以後の通算 GPA) の二つに分けられます。

GPA制度の ねらい

GPA は「4」に近いほど学習状況が良好であることを示します。
一方で、GPA が「0」に近ければ、履修登録単位数が過剰であったり、体系的・効率的な履修ができていないなど、学習状況に何らかの問題が生じている可能性があります。
そういった問題を適宜発見し、教職員の指導も交えながら、皆さんの以後の学習改善に繋げるために GPA 制度は有効であるといえます。

修学指導・ 退学勧告

大学は、GPA が著しく低くなった学生に対し、下記の手続きを経て退学勧告を行うことがあります。

1. 1年次終了時において累積 GPA が 0.500 未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談の上、次年度以降に向けた適切な修学指導を行う。
2. 2年次以降の各年度終了時において累積 GPA が 0.500 未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談および修学指導を行う。
3. 前項の面談および修学指導を行った教育職員は、その結果を学科主任に報告する。
4. 前項の報告を受けた学科主任は、今後の改善見込みの可否について判断し、改善の見込みがないと判断した場合は、学部長に判断結果を報告する。
5. 前項の報告を受けた学部長は、学科主任と協議を行い、改善の見込みがないと判断した場合は、当該学生への退学勧告について、教授会の議を経て学長に報告する。
6. 前項の報告を受けた学長は、当該学生に対し退学勧告を行う。

ただし、GPA 制度はあくまでも学生の皆さんの学習意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告を行うことはありません。

上記に定める学科教員の面談・修学指導により、以後の学習改善に向けた意欲が確認できれば引き続き修学することが可能です。

一方で、「面談の呼び出しに応じない」「面談したが学習改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがありますので注意してください。